

内閣府沖縄総合事務局 農林水産部 生産振興課

～消費者の部屋 特別展示～

沖縄の農産物に関するパネル展

9月21日(火)～9月30日(木)

～沖縄で生産される農産物への理解を一層深め、消費拡大につなげたい～



沖縄の農林水産業の特徴

- 沖縄では、亜熱帯地域の温暖な気候と広大な海に囲まれた地理的特性を活かし、**各地で多彩な農林漁業の生産活動**が行われている。
- 台風の常襲など厳しい自然環境にあるが、特に離島や北部では、**さとうきびをはじめ、果樹、畜産等の農林水産業が地域経済を支えている**。

【主な農林水産物】

さとうきび

県内の約6割の農業経営体が栽培。沖縄の基幹作物で、収穫面積は全国の過半を占める（全国1位）。

収穫時期：12月～3月



マンゴー

近年増加している主力の果実。県内各地で生産され、収穫量は全国の半分を占める（全国1位）。

収穫時期：7月～8月



パインアップル

本島北部や八重山地方が中心の本県特産の果実で、収穫量は全国のほぼ100%を占める（全国1位）。収穫時期：6月～8月



ゴーヤー

温暖な気候を活かして、冬春期には全国に供給される力野菜。県内各地で生産され、収穫量は全国の4割を占める（全国1位）。

収穫時期：5月～7月



小ぎく

冬春期に全国へ供給する主力花き。本島を中心に生産され、出荷量は全国の4割以上を占める（全国1位）。

収穫時期：11月～5月



シークワサー

本島北部が中心の本県特産の果樹で、収穫量は全国のほぼ100%を占める（全国1位）。

収穫時期：8月～2月



もずく

養殖業により、年間を通じて全国需要の99%をまかっている（全国1位）。

収穫時期：4月～6月



豚

豚肉は、古くから沖縄の食文化を支えており、食味に関連する成分（オレイン酸）が多いと評価が高い「沖縄アグー豚」を活用した肉豚等を出荷（全国16位）。



子牛(肉用牛)

年間を通じて豊かな牧草資源を活かした繁殖経営が主体（子牛取引頭数全国4位）。肥育経営も全国トップレベルのブランド牛を生産。



まぐろ

近海の豊富な海洋資源に恵まれ、全国有数の漁獲量を誇る（全国7位）。

盛漁期：4月～7月



沖縄における農林水産物の主な産地について

中部地域（県全体の6%）

盛んな品目	主な市町村
花き（きく等）	嘉手納町、中城村、宜野湾市
肉用牛	うるま市、沖縄市、西原町
野菜	宜野湾市、うるま市、中城村
豚	うるま市、沖縄市

このほか、かんしょ（読谷村、うるま市）、オクラ（うるま市）、にんじん（うるま市、読谷村）、マンゴー（沖縄市、うるま市）、中晩柑類（うるま市）、びわ（沖縄市）、アーサ（北中城村）、ソデイカ（西原町）等



北部地域（県全体の32%）

盛んな品目	主な市町村
豚	国頭村、東村、金武町
花き（きく等）	名護市、恩納村、金武町
野菜	今帰仁村、名護市、伊江村
肉用牛	伊江村、本部町、今帰仁村
パイナップル	東村、国頭村、名護市

このほか、シークワーサー（大宜味村、名護市）、マンゴー（各地）、アセローラ（本部町）、パッションフルーツ（恩納村）、すいか（今帰仁村）、ゴーヤー（名護市）、かぼちゃ（名護市）、とうがん（伊江村）、島らっきょう（伊江村）、切り葉（名護市、伊江村、恩納村）、モスク（伊是名村、伊平屋村、恩納村）、海ぶどう（恩納村）等

南部地域（県全体の31%）

盛んな品目	主な市町村
野菜	豊見城市、糸満市、南城市
さとうきび	南大東村、久米島町、北大東村
豚	南城市、南風原町、八重瀬町
肉用牛	久米島町、南城市、糸満市
鶏卵	南城市、糸満市、八重瀬町

このほか、マンゴー（各地）、パッションフルーツ（糸満市）、ゴーヤー（各地）、さやいんげん（南城市、八重瀬町）、オクラ（南城市、八重瀬町）、ウコン（南城市）、レタス（糸満市）、にんじん（糸満市）、かぼちゃ（南風原町、北大東村）、ピーマン（八重瀬町）、ストレリチア（南風原町）、かんしょ（八重瀬町、久米島町）、クルマエビ（久米島町）等



八重山地域（県全体の13%）

盛んな品目	主な市町村
肉用牛	石垣市、竹富町
さとうきび	石垣市、竹富町
野菜	石垣市
パイナップル	石垣市、竹富町

このほか、オクラ（石垣市）、かぼちゃ（竹富町）、ヘリコニア（石垣市）、ジンジャー（石垣市）、かんしょ（石垣市）等

与那国町

竹富町

石垣市

竹富町

石垣市

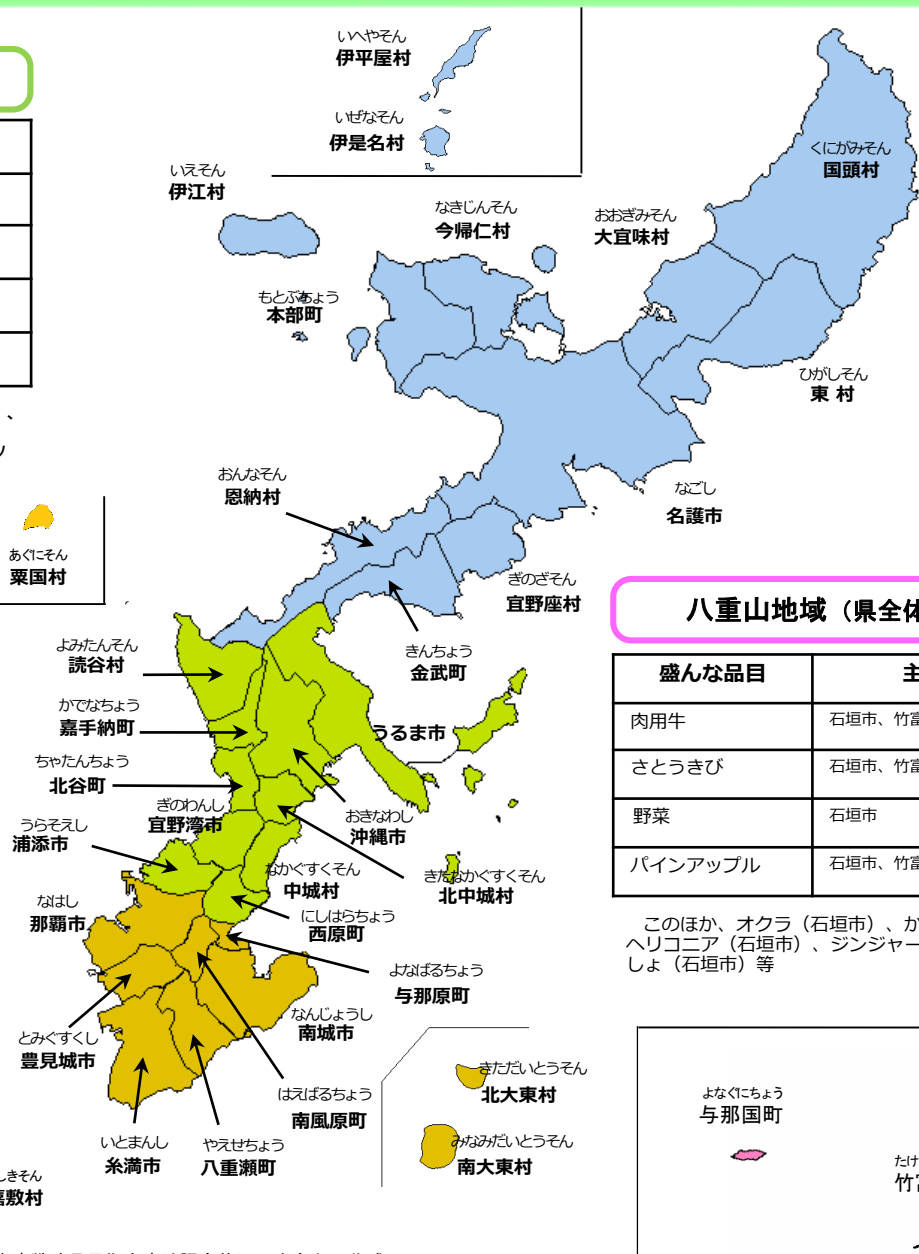
宮古地域（県全体の18%）

盛んな品目	主な市町村
さとうきび	宮古島市、多良間村
肉用牛	宮古島市、多良間村
葉たばこ	宮古島市
野菜	宮古島市

このほか、ゴーヤー（宮古島市）、かぼちゃ（宮古島市）、とうがん（宮古島市）、マンゴー（宮古島市）等

多良間村

宮古島市



資料：農林水産省「市町村別農業産出額（令和元年）及び沖縄県「農林水産戦略品目拠点産地認定状況」をもとに作成

※ 各地域の品目は生産額の高い順に記載。カッコ内の数値は、沖縄県全体の農業産出額に占める各地域の割合で、四捨五入しているため合計が100にならない

沖縄農業におけるさとうきびの位置づけ～生産構造の現状～

▶ さとうきび農家戸数

令和2年産のさとうきび作農家数は14,287戸と、昭和48年産の39,863戸から減少傾向にあります。一方で、沖縄県の農業経営体に占めるさとうきび経営体は約6割を占めています。

▶ 生産量

さとうきびが最も生産された年は、昭和39年の約243万トンでしたが、生産農家の減少にともない、生産量も減少傾向となっています。

近年では、平成23年産に病害虫や度重なる台風等の自然災害の影響で、54万トンと復帰後最低となっています。

その後、平成26年産までは60万トン台が続き、27年産に75万トンまで回復、平成28年産は17年ぶりに90万トンを超え、令和2年産は81.3万トンとなっています。

▶ 農業産出額

農業産出額が最も高かったのは、昭和60年の374億円。

近年は、大減産となった平成23年に復帰後最低の118億円まで下がり、その後は140億円から160億円台で推移し、令和元年には152億円（全体の15.6%）となっています。

さとうきびは沖縄農業の大きな牽引役を担っています。

沖縄農業におけるさとうきびの位置付け～分みつ糖と含みつ糖の違い～



グラニュー糖

結晶が上白糖よりやや大きく、サラサラとしたクセのない甘みを持つため、コーヒー、紅茶に最適。



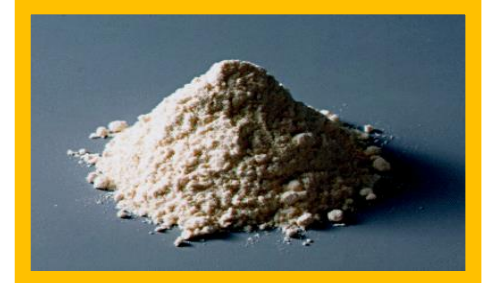
中ざら糖

独特の風味がある。煮物などに使用。



三温糖

糖液を煮詰めることで茶褐色となっている。特有の風味を持ち甘さも強い。煮物、佃煮などに最適。



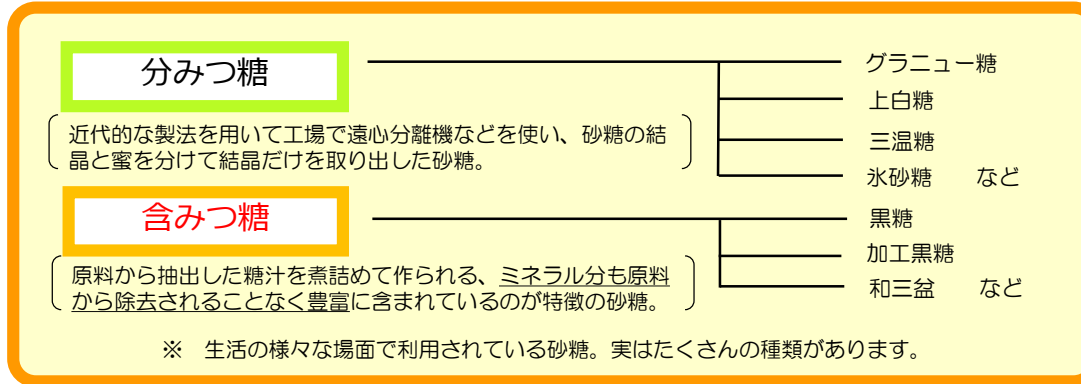
和三盆

日本の伝統的製法で作る砂糖。結晶が小さく独特の風味を持つため和菓子の原料として珍重。徳島県などで生産。



白ざら糖

結晶がグラニュー糖より大きく光沢のある砂糖。高級な菓子や飲料に最適。



黒糖

さとうきびの搾り汁をそのまま煮詰めたもの。濃厚な甘さと強い風味がある。沖縄県においては8島で製造。



上白糖

日本人好みのソフトな風味。しっとり感を出すためビスコ(糖液)をかけている。何にでも合い、国内の砂糖消費量の約半分を占める。



角砂糖

グラニュー糖を固めたもので、コーヒー、紅茶に使用。1個の重量が決まっているので、料理や菓子作りに便利。



氷砂糖

ゆっくり時間をかけて結晶を大きくした氷のように見える砂糖。溶けるのに時間がかかるため果実酒用に最適。

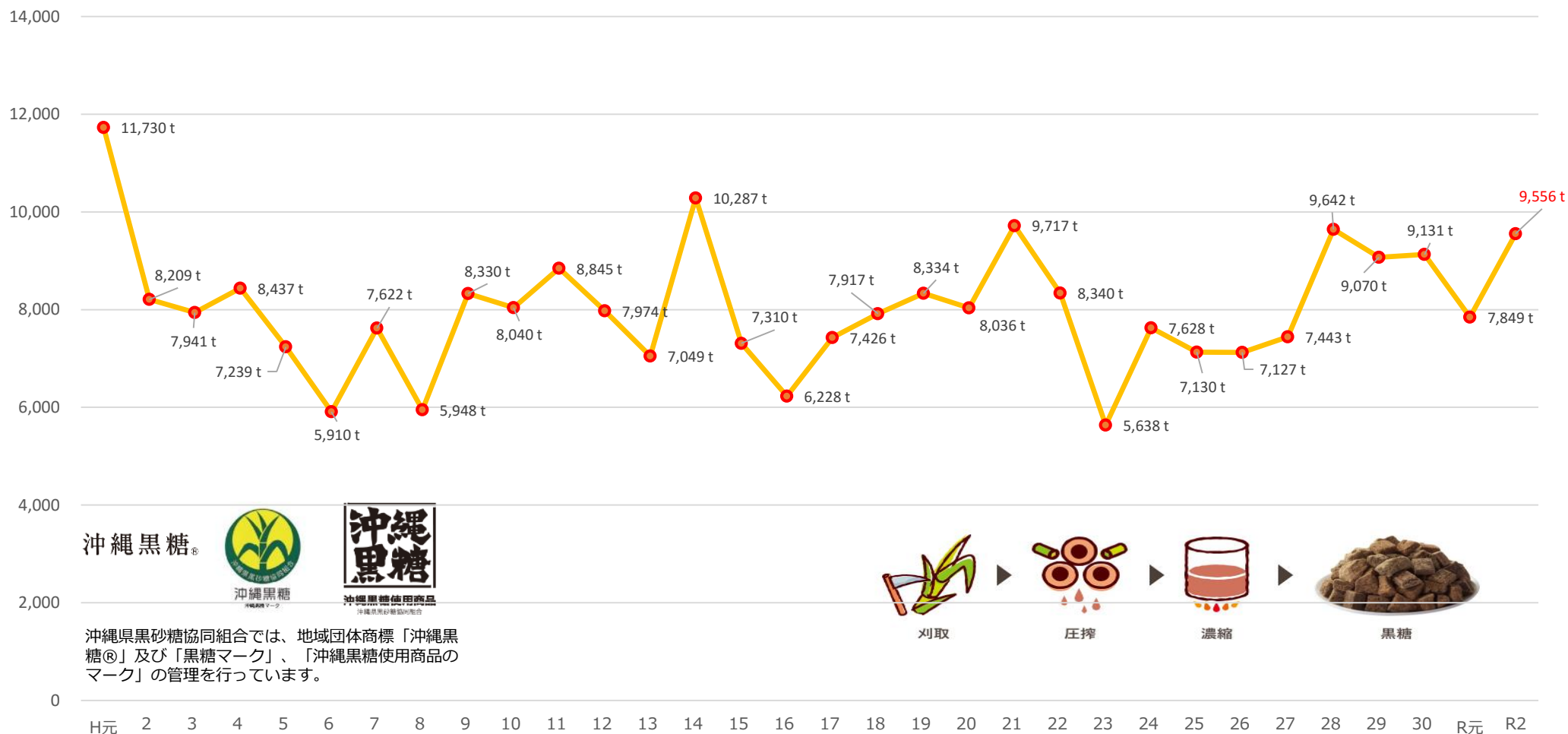


加工黒糖

加工黒糖は、粗糖、糖蜜、黒糖などをブレンド加工して作られたもの。加工黒糖の黒糖使用割合は製品重量に対して5%以上となっている。

沖縄農業におけるさとうきびの位置付け ～黒糖生産量の推移～

- 含みつ糖(黒糖)を製造している島は8島(伊平屋、伊江、粟国、多良間、西表、小浜、波照間、与那国)で県全体のさとうきび生産量の約9%を占めています。
- 黒糖の生産量は、原料であるさとうきびが気象条件に左右されることから、安定生産の維持が難しい状況となっています。
- 令和2年産は黒糖生産量が9,556トンで、在庫量は約15,441トン(R3.6末時点)となっています。



沖縄黒糖®  

沖縄県黒砂糖協同組合では、地域団体商標「沖縄黒糖®」及び「黒糖マーク」、「沖縄黒糖使用商品のマーク」の管理を行っています。



資料：「さとうきび及びび甘しゃ糖生産実績」（沖縄県農林水産部）

沖縄農業におけるさとうきびの位置付け ～ 8 島黒糖の特徴と分布～

伊平屋島産

沖縄本島の北西方53kmにある伊平屋島。山があり豊かな水に恵まれ、さとうきび畑が広がるのどかな村で作られる黒糖は、硬く大きな粒でゴツとした外見が特徴。

J A 伊平屋工場
～伊平屋島～

伊江島産

沖縄本島の本部半島から北西へ約9km、フェリーで30分ほどに位置する離島。平成23年から黒糖製造が始まった新顔。比較的白っぽく、コロッと小ぶりで愛嬌のある形。

J A 伊江工場
～伊江島～

J A 粟国工場
～粟国島～

粟国島産

かつては粟の産地だったことが島の名前の由来になっているが、現在は黒糖と塩で有名。

～久米島～

多良間島産

宮古島と石垣島のほぼ中央に位置し、中央にさとうきび畑が広がる小さな純農村の島。黒糖はこげ茶色をした長方形で、硬めのしっかりした粒。一目で他島と判別ができる。

宮古製糖 (多良間工場)
～多良間島～

与那国島産

石垣島の西方130km、台湾が見える国境の町で知られる与那国島は日本最西端の島。低地に水田、台地ではさとうきびが栽培されている。黒糖は明るい黄土色をしたキャラメル型。

J A 与那国工場
～与那国島～

波照間島産

石垣島の南西方56kmに位置する波照間島は日本最南端の島。南十字星がよく見える島としても有名。唯一の特産品の黒糖は、ゴロっと大粒でシャリシャリした食感が魅力。

波照間工場
～波照間島～

西表島産

沖縄本島に次ぐ大きな島で“東洋のガラパゴス”ともいわれる西表島。イリオモテヤマネコなどの希少動物が生息している。黒糖は八島のなかでも色白。

西表工場
～西表島～

小浜島産

石垣島と西表島の間に広がる日本国内最大のサンゴ礁、石西礁湖内に位置する小浜島。この黒糖は、まるでチョコレートのような愛らしい外見が特徴。

J A 小浜工場
～小浜島～



沖縄農業におけるさとうきびの位置付け ～沖縄黒糖の栄養と商標～

ビタミンとミネラルが豊富な黒糖で健やかな毎日を。

- 黒糖について「健康によさそう」という印象を持つ人が多いようですが、実際にはどのような健康効果があるのでしょうか。
- 表にあるように、上白糖やはちみつなどに比べ、黒糖はビタミンやミネラル（無機質）を豊富に含んでいます。主成分はこれら甘味料と同じように炭水化物（糖質）でエネルギー源となりますが、毎日の生活のなかに黒糖を取り入れると、健康に不可欠なビタミンやミネラルも少しずつですが、同時に摂取することができます。

丈夫な骨を作るカルシウム

- 食べるものに困ることのない豊かな食生活の日本。しかし、そんななかで唯一不足している栄養素が、カルシウムです。黒糖にはそのカルシウムが、上白糖の240倍もあります。カルシウムといえば、骨や歯をつくる大切な栄養素。成長期の子どもはもちろんですが、骨粗しょう症予防のためにも、とくに女性はカルシウムが不足しないよう心がけておきたいものです。
- また、黒糖にはカルシウムとともに骨の代謝に必要なマグネシウムやリンもわずかですが含まれています。牛乳と黒糖の組み合わせは、カルシウムの吸収率が高まり好相性です。

沖縄黒糖の情報はここから！

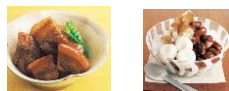
黒砂糖組合

検索



沖縄県黒砂糖協同組合HP

☆黒糖を使ったレシピもあるよ



脳にすぐ届くエネルギー

- 仕事や勉強で脳が疲れて集中力が切れたとき、強い味方となるのが黒糖です。脳のエネルギーになるのはブドウ糖ですが、食事で摂ったご飯やパンがブドウ糖に分解されるには時間がかかります。しかし、黒糖などの糖分（しょ糖）は、消化酵素によって、素早くブドウ糖と果糖に分解されます。しかも、黒糖にはブドウ糖をエネルギーに変えるのに必要不可欠なビタミンB1とナイアシンも一緒に含まれています。
- つまり、黒糖を食べるとエネルギーが脳へ短時間で届き、疲労を回復させてくれることに。受験生など頭を酷使する人に、黒糖は最適なおやつといえるでしょう。

商標について

- 沖縄県黒砂糖協同組合では、当組合で所有する地域団体商標「沖縄黒糖」及び黒糖マーク、新たに設置した沖縄黒糖使用商品のマークの管理を行っております。
- 黒糖は、商品の原材料表示が「さとうきび」となっており、黒糖マークを目印にお確かめいただけます。



沖縄黒糖



沖縄県黒砂糖協同組合



www.honbon.jp



沖縄黒糖マーク



本場の本物



www.honbon.jp

沖縄県産黒糖・料理専門家評価会 — 開催結果 —



令和3年8月5日に東京都市ヶ谷（Patia市ヶ谷）にて、沖縄県産黒糖の需要拡大及び安定供給体制の確立を目的に実施している「令和3年度沖縄県産黒糖需要拡大・安定供給体制確立実証事業」の取組として、（公財）流通経済研究所の主催により「沖縄県産黒糖・料理専門家評価会」が開催されました。

沖縄県産黒糖の在庫量が増加傾向の中、需要拡大が喫緊の課題となっていることから、当評価会では、様々なジャンルの料理専門家を招聘し、沖縄県内8つの島で作られた黒糖を実際を使ってオリジナル料理を作っていただき、黒糖の魅力や新しい使い方を発表していただきました。

料理専門家の皆さん



料理専門家（敬称略、順不同）

開催の様子



当日の
料理を
一部紹介



パティシエ
中達 敬治 氏

モンブラン
(洋菓子)

イタリアンシェフ
アル・ケッチアーノ
奥田 政行 氏

沖縄黒糖を入れた
キャラメルのみース
(洋菓子)



日本料理シェフ
菊の井
堀 知佐子 氏

黒糖おはぎ
(和菓子)

フレンチシェフ
Hagiフランス料理店
萩 春朋 氏

黒糖万能
ガストリックソース
(フレンチ)



和菓子職人
御菓子司津村屋
角村 茂 氏

クルミとかちわり黒糖
の求肥包み
(和菓子)

料理専門家
(敬称略、順不
同)

- 普段料理に沖縄黒糖を使ったことがないけど、興味があるので使ってみてほしい！
- 沖縄黒糖の魅力を引き出して、美味しい料理やお菓子を作りたい！
そんな時は是非、配信動画をご視聴ください。

- 東京都で開催された「沖縄県産黒糖・料理専門家評価会」における料理レシピについては、沖縄県黒砂糖協同組合のウェブサイトで公開される予定です。今しばらくお待ちください。



沖縄県黒砂糖協同組合のYouTubeアカウントでライブ配信
(<https://www.okinawa-kurozatou.or.jp/news/252>)

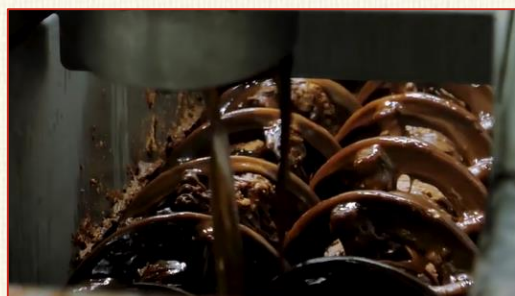


沖縄県黒砂糖協同組合
沖縄県黒砂糖工業会

- 沖縄県黒砂糖協同組合のウェブサイトでは、8つの島で作られた「8島黒糖」の特徴や黒糖の製糖工場での製造工程などを「黒糖紹介ムービー」として紹介しています。
是非、ご覧ください！

沖縄県黒砂糖協同組合ウェブサイト
(<https://www.okinawa-kurozatou.or.jp/>)

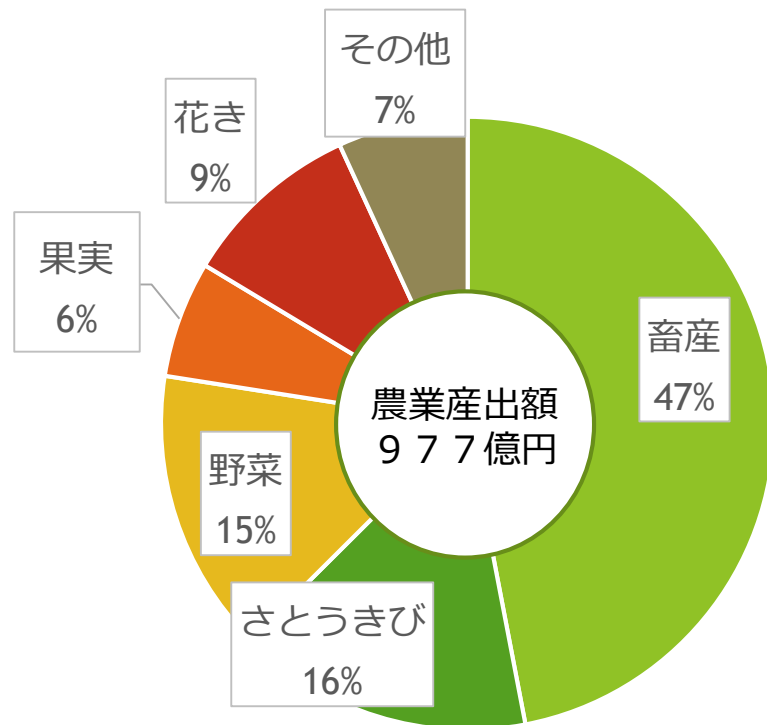
「黒糖紹介ムービー」



沖縄農業における園芸作物の位置付け

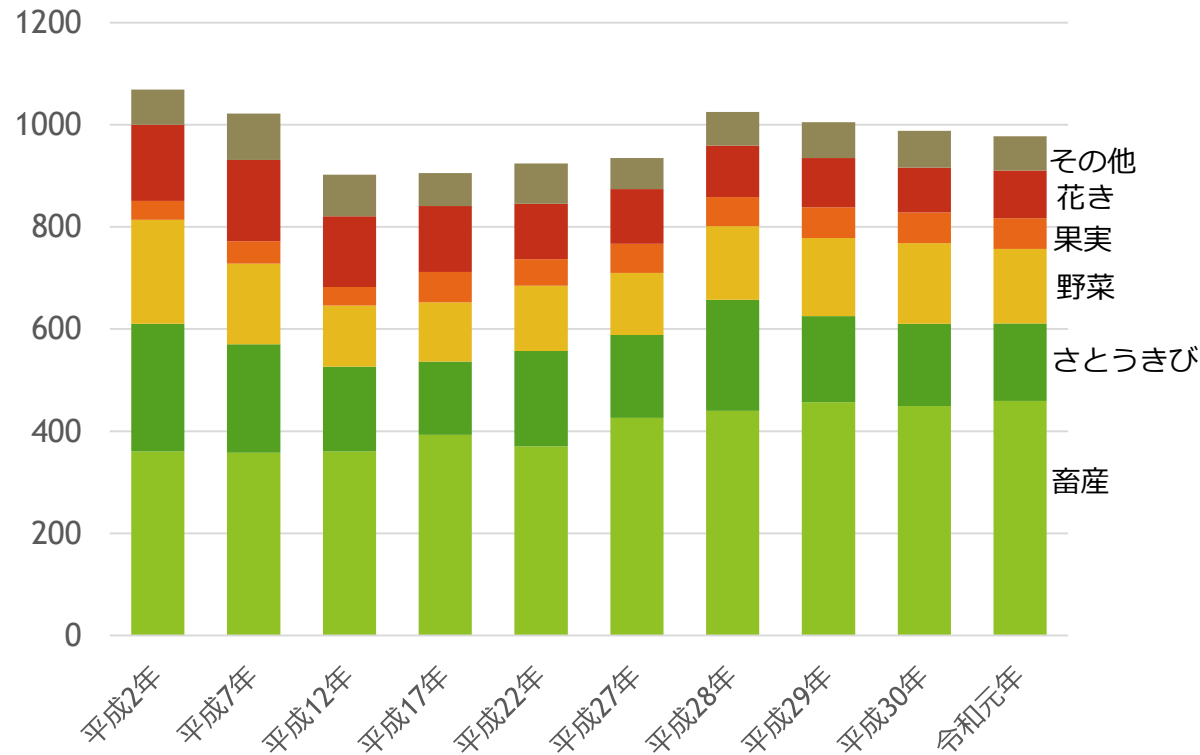
- 令和元年の沖縄県の農業産出額は977億円。そのうち園芸作物は299億円（野菜：146億円、果実：60億円、花き：93億円）となっており、全体の31%を占める重要な品目となっている。
- 農業産出額は、平成12年の902億円を底に近年は、上昇傾向にある。野菜は120億円(H12)→146億円(R元)、果樹は36億円(H12)→60億円(R元)に増加している一方、花きは139億円(H12)→93億円(R元)に減少している。

○農業産出額に占める園芸作物の割合（令和元年）



○各品目の農業産出額の推移

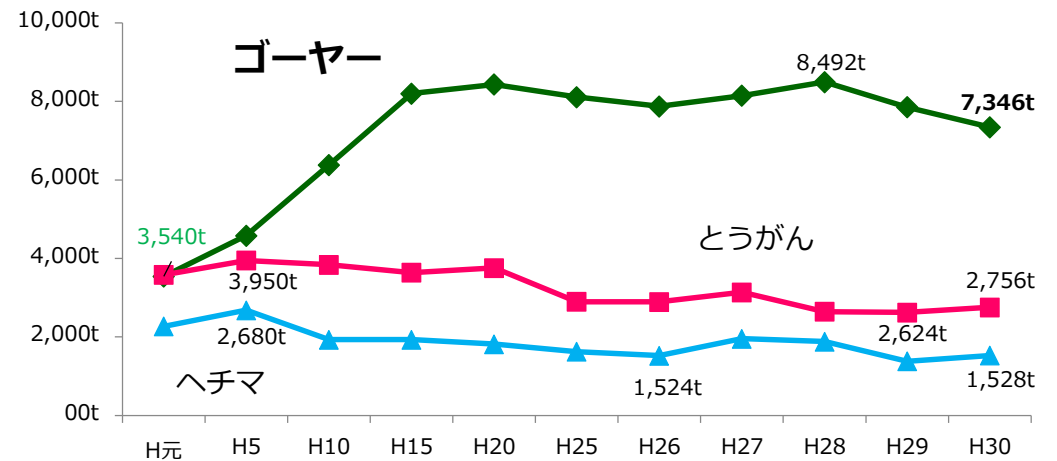
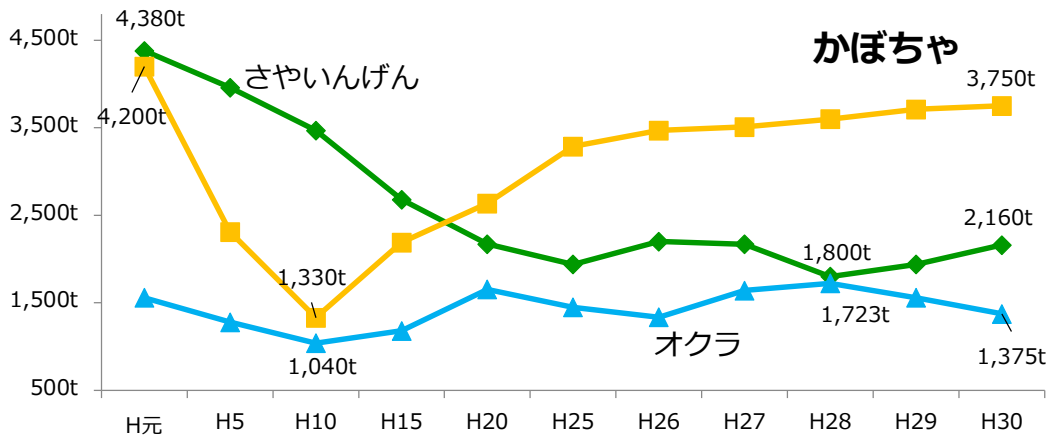
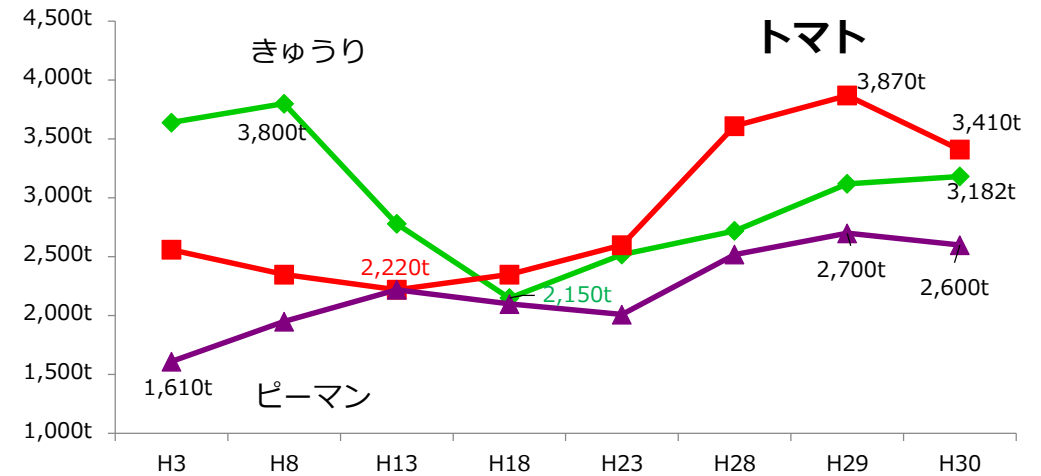
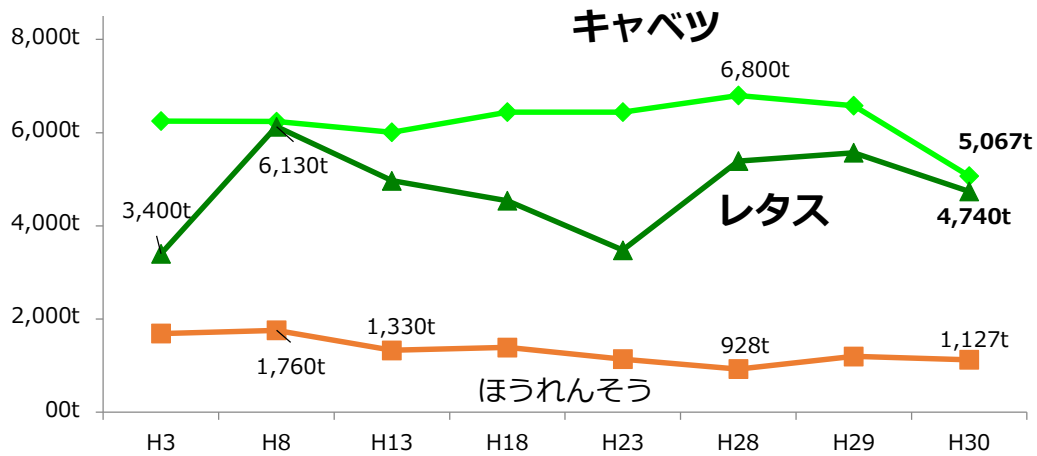
(単位：億円)



資料：農林水産省統計部「生産農業所得統計」

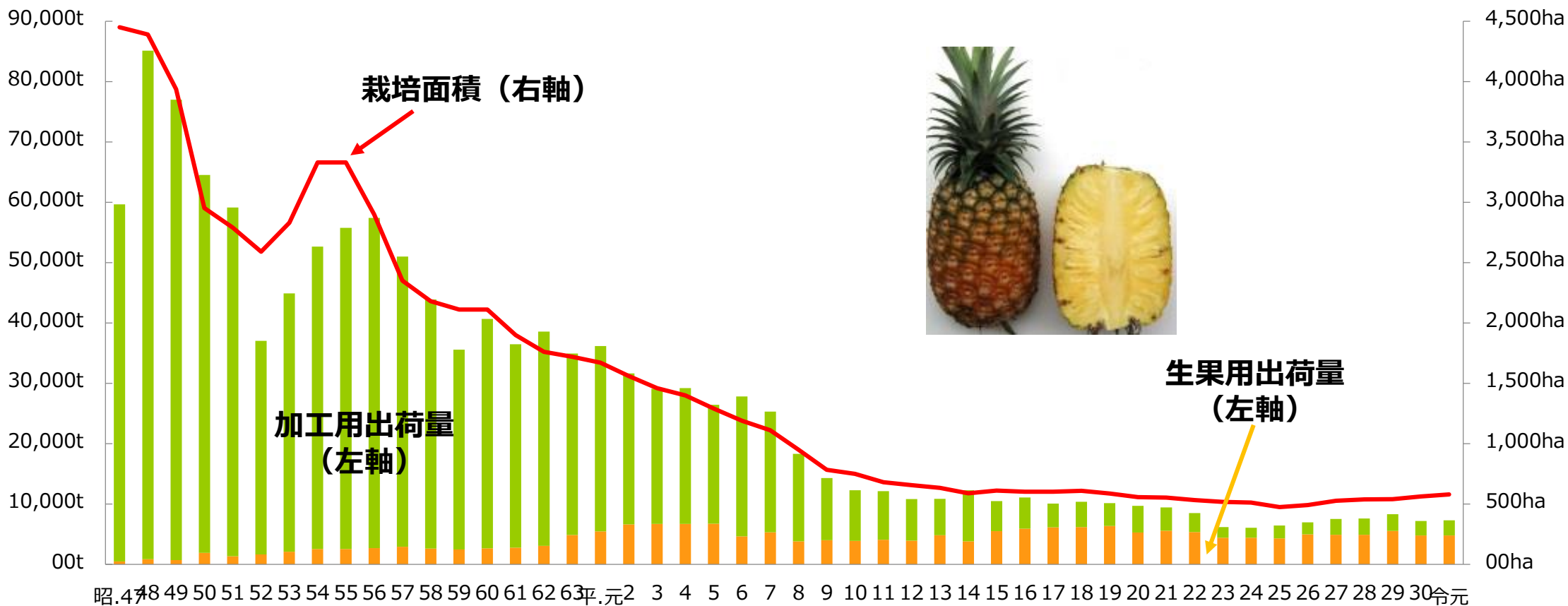
沖縄における主な野菜の生産状況

- 沖縄県では、亜熱帯の気候特性を活かして、本土の端境期である冬春期を中心にキャベツ、レタス、トマト等の野菜が生産されており、ゴーヤーは夏場を中心に生産されています。
- ゴーヤーは平成28年を境に近年の増加傾向から減少傾向へ転じています。一方、かぼちゃは、一時輸入増加により収穫量が激減しましたが、近年、国産需要の増加に伴い、ゆるやかに回復しています。
- 平成30年は、ゴーヤー、キャベツ、レタスが収穫量の上位3品目となっています。



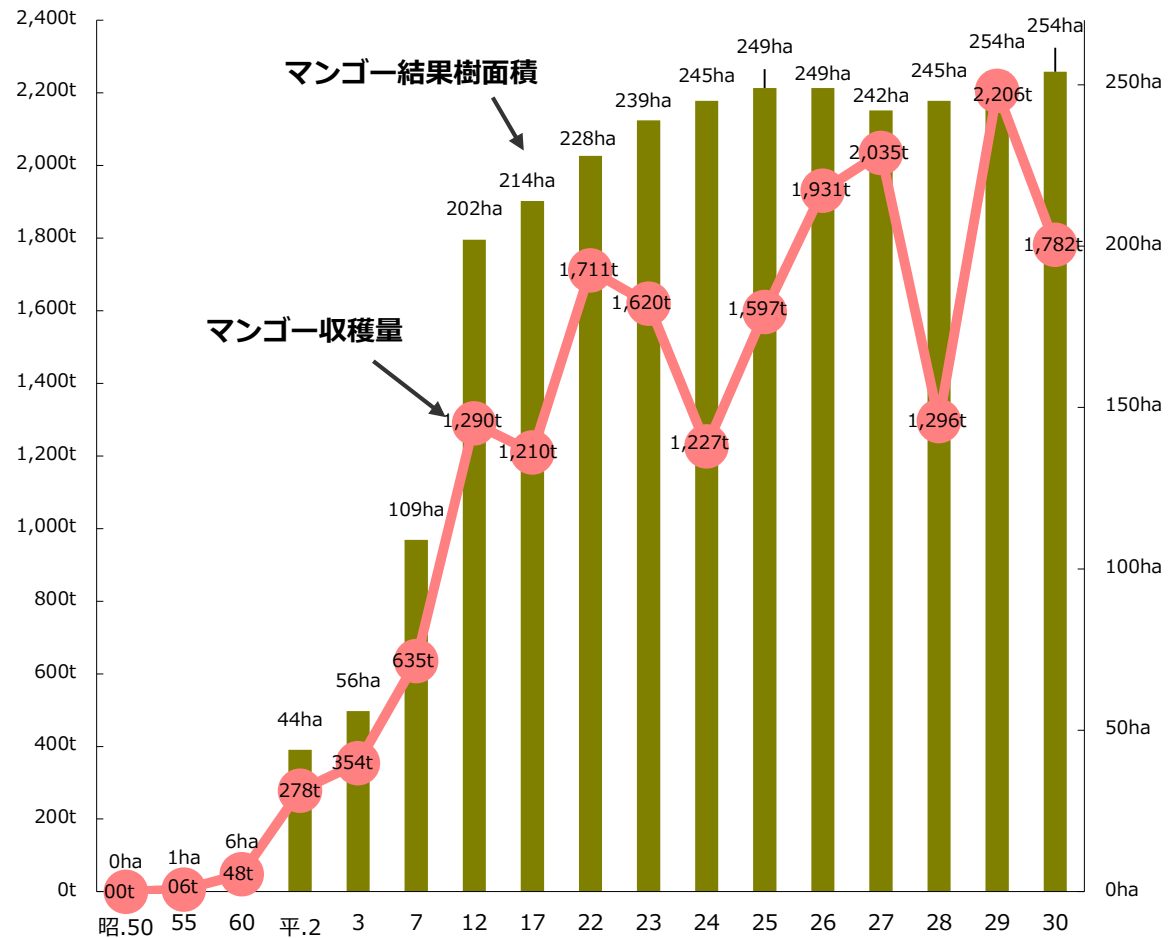
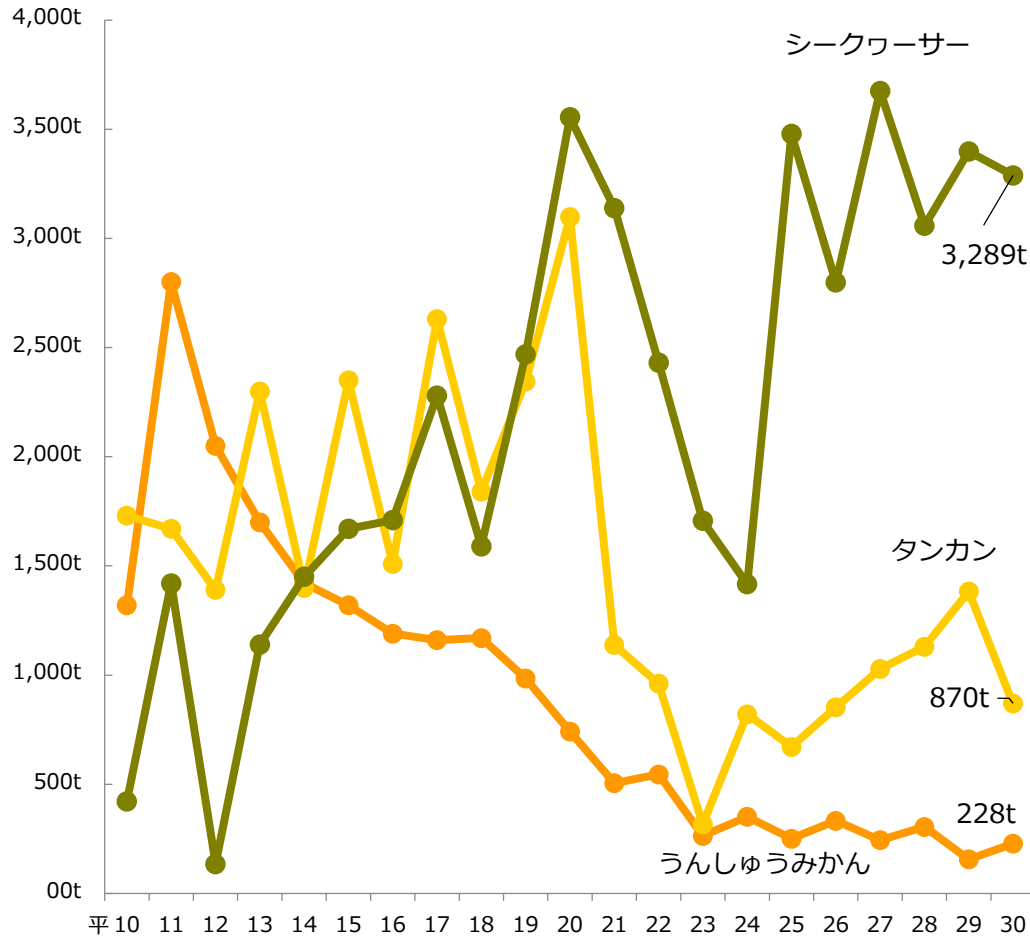
沖縄におけるパイナップルの生産状況

- パイナップルは、本島北部、石垣島、西表島の酸性土壌地域で栽培されており、地域農業や観光産業の振興を図る上で重要な作物です。
- これまで基幹作物として生産が盛んに行われていたものの、生産農家の高齢化や他作物への転換、また、パイナップル缶詰について、平成2年4月の輸入自由化等により生産量は減少傾向で推移していました。
近年、生産拡大と加工原料の安定確保に向けて、苗の安定供給体制の確立、遊休地等への新植、更新の推進等を図ったことにより、やや増産の兆しが見られます。



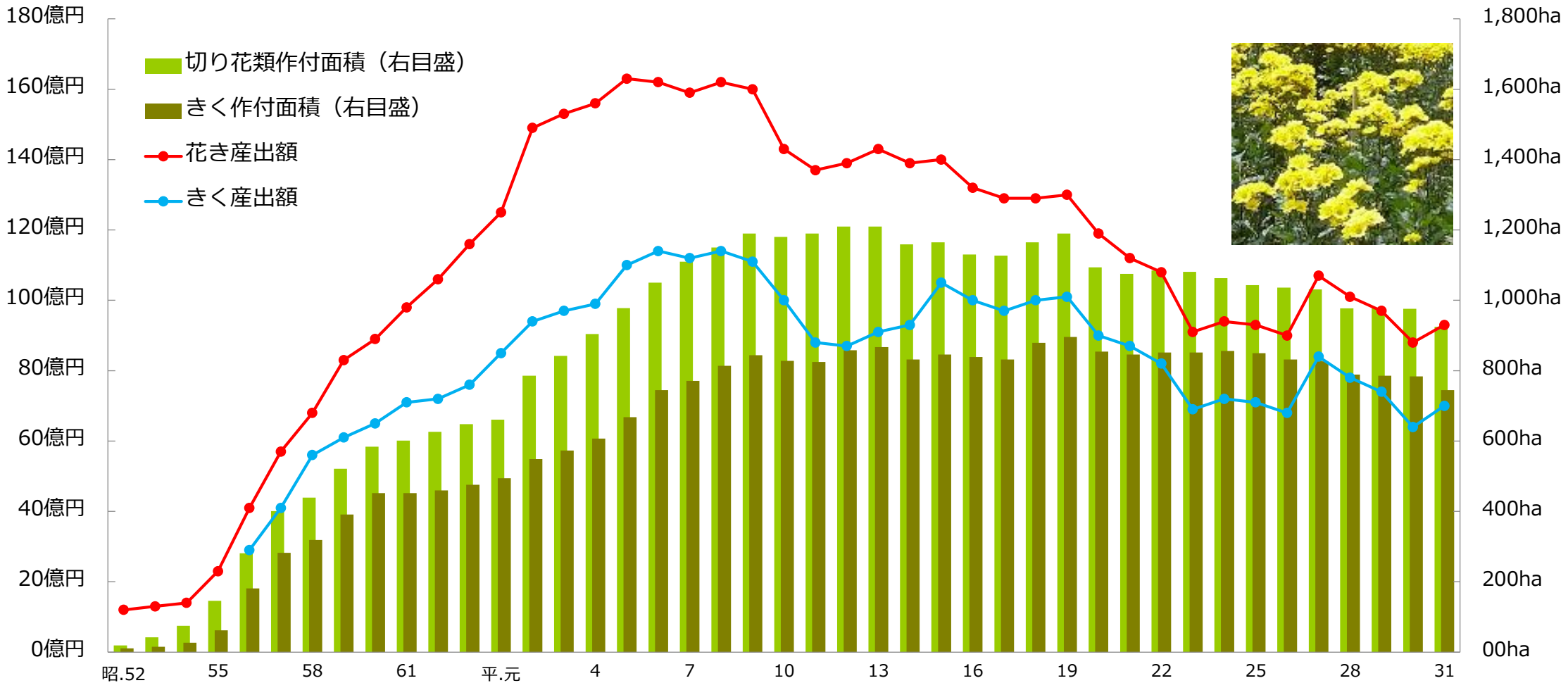
沖縄におけるかんきつ類及び熱帯果樹の生産状況

- マンゴー等の熱帯果樹は、ウリミバエ及びミカンコミバエの根絶等に伴う農家の生産意欲の増大や栽培技術の確立及び補助事業等を通じた生産基盤の整備により、生産量は近年、安定して推移している。
- かんきつ類は、タンカン、うんしゅうみかん、シークワーサー等を中心に栽培されており、相次ぐ台風襲来による落果、樹体の損傷等により生産量は増減がみられます。



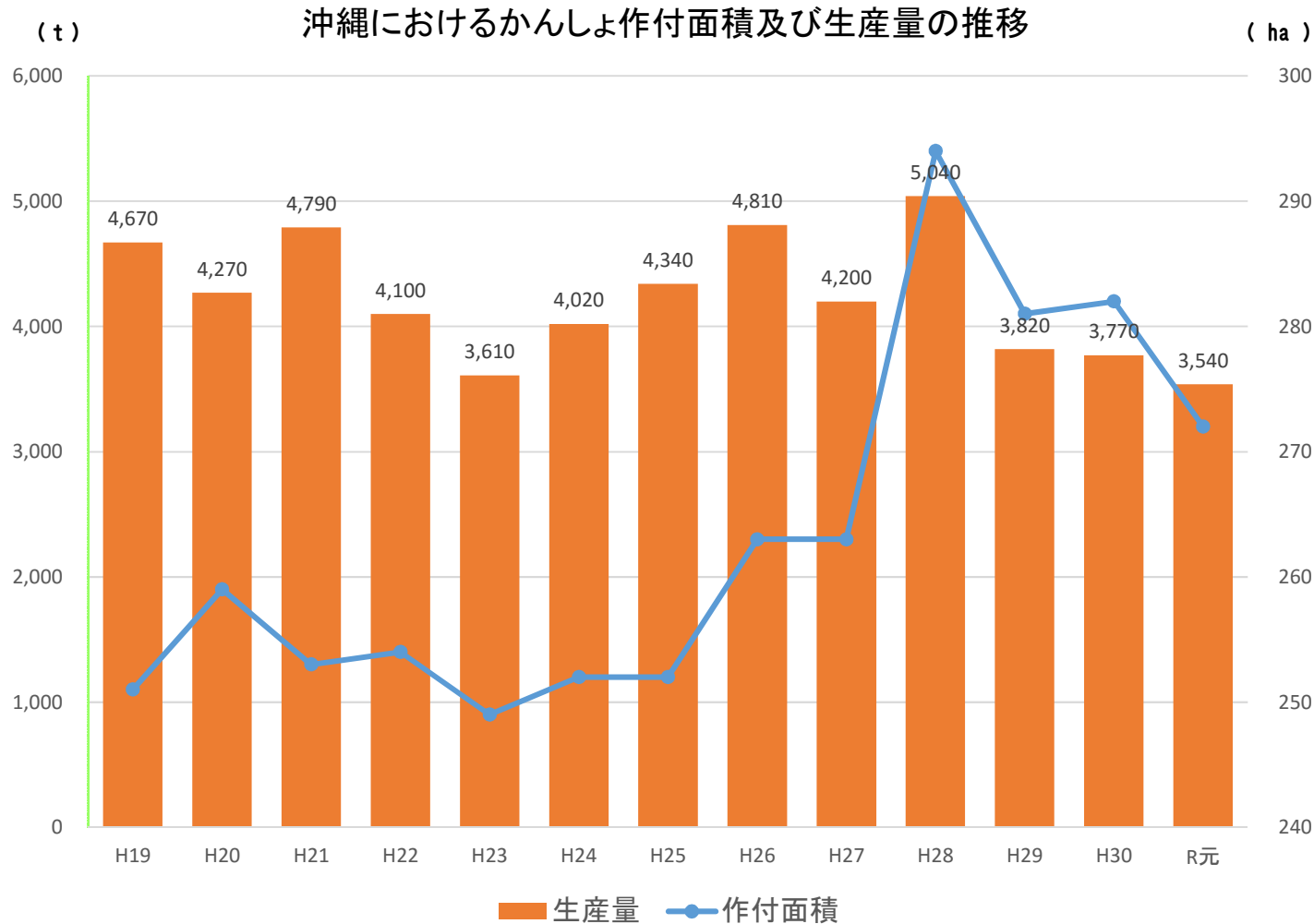
沖縄における花きの生産状況

- 沖縄の花きは、冬春期の温暖な気候を生かし、露地ぎくを中心に作付面積、出荷量ともに飛躍的に増加してきました。しかし、平成9年以降、国内の景気低迷を要因とする価格の低下、産地間競争による洋ランの減少等により花きの産出額は減少傾向で推移しており、平成31年の算出額は93億円（農業算出額全体の9.5%）となっています。
- 小ぎくについては、彼岸時期である3月には全国需要の約9割を占めており、責任産地としての地位を確立しています。
- 品目別出荷量で見ると、切り花類の中でもきくが約9割と最も多くなっています。



沖縄におけるかんしょの生産状況

- かんしょは、食物繊維、ポリフェノール等が含まれていることから、その機能性成分が注目されていることや、加工用向け需要の増加から、安定した生産が行われています。用途別には加工用が9割で、近年、紅芋菓子等の需要が増加しています。
- 沖縄県内では、かんしょの害虫であるアリモドキゾウムシ、イモゾウムシが発生していることから、植物防疫法上、蒸熱処理を行ったものの以外の生いもは県外への持ち出しが制限されています。



かんしょの栽培風景



果肉が黒ずむ
異臭がする

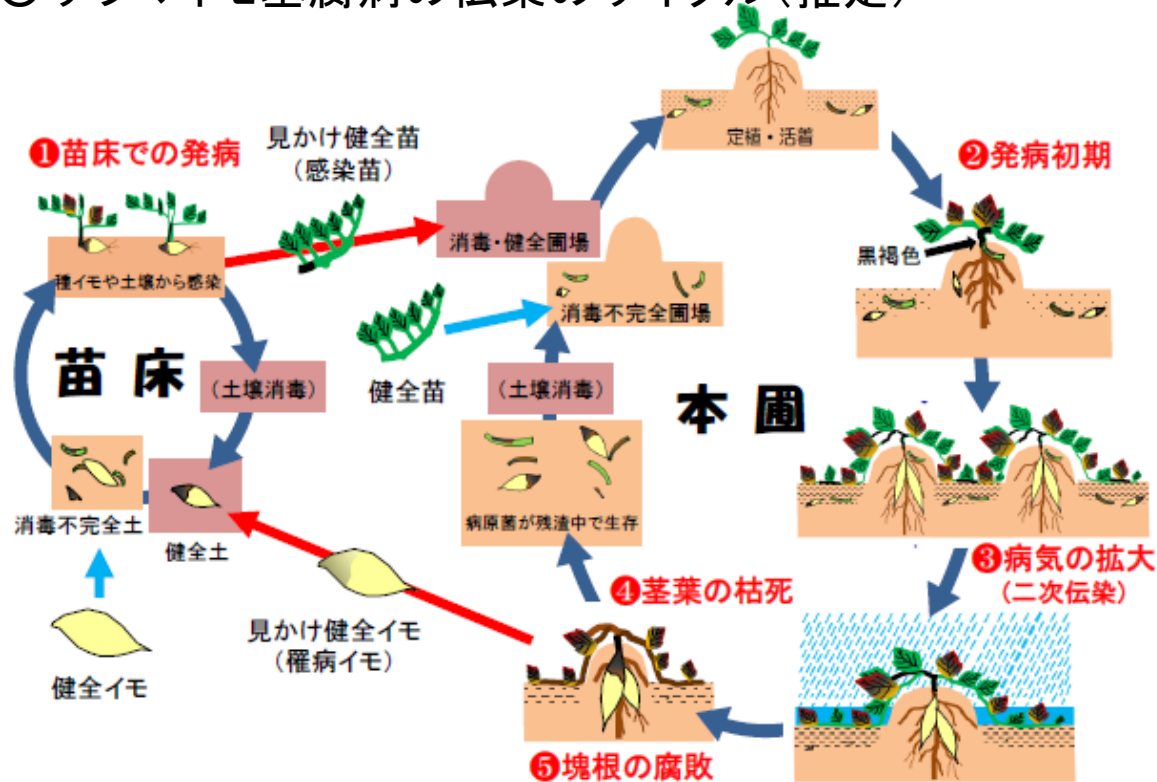


アリモドキゾウムシ
に食べられた芋

サツマイモ基腐病について

- サツマイモ基腐病は、カビ（糸状菌）が原因でサツマイモの腐敗や葉・茎が枯れる病気です。平成30年秋、宮崎県、鹿児島県、沖縄県で発生が確認され、沖縄のかんしょ生産にも大きな被害を起こしました。その後、発生地域が拡大し、現在、19都県で感染が確認されています。（令和3年8月時点）
- サツマイモ基腐病に罹病すると、地際の茎が黒く変色し、茎葉は黄色や紫色に変色して、次第にしおれます。茎葉が繁茂する時期には、ツルが黒色から黒褐色に変色し、地上部が枯死します。また、発病株のイモは、成り首側からゆっくりと腐敗します。
- サツマイモ基腐病のまん延を防ぐためには、種いもや苗を購入する際、基腐病が発生していないほ場で生産されているか確認する、ほ場の排水対策及び土壌消毒などの取り組みが重要であることから、国ではこれらの対策への支援を行っています。

○サツマイモ基腐病の伝染のサイクル(推定)



○サツマイモ基腐病の被害



罹病したイモ。褐色～暗褐色に腐敗している。



地上部の茎葉が枯死し、収穫皆無となったほ場

○国の主な支援策

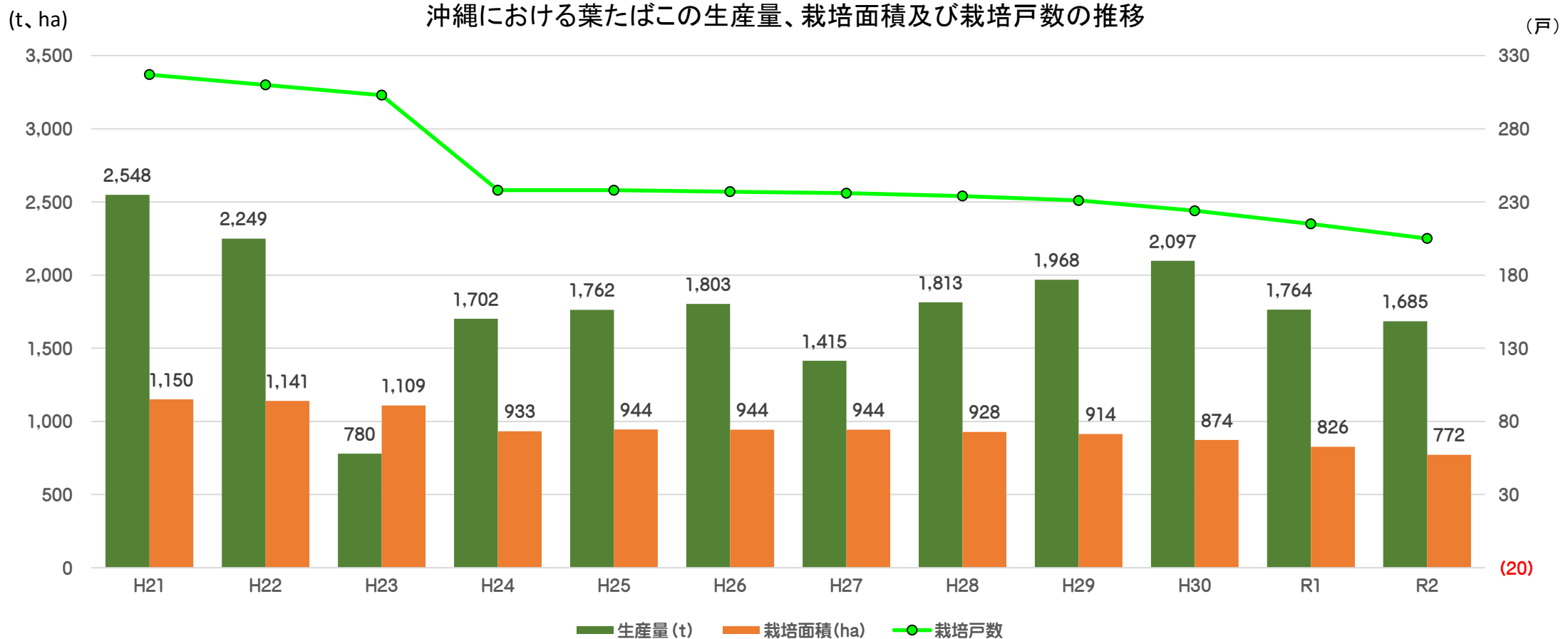
事業名：かんしょ生産性向上緊急支援事業（かんしょ重要病害虫対策事業）（令和2年度補正）

主な支援内容：苗及び苗床の消毒、罹病検査、防除用機械の導入、輪作の実証などの取り組みを支援。

補助率：定額、1/2

沖縄における葉たばこの生産状況

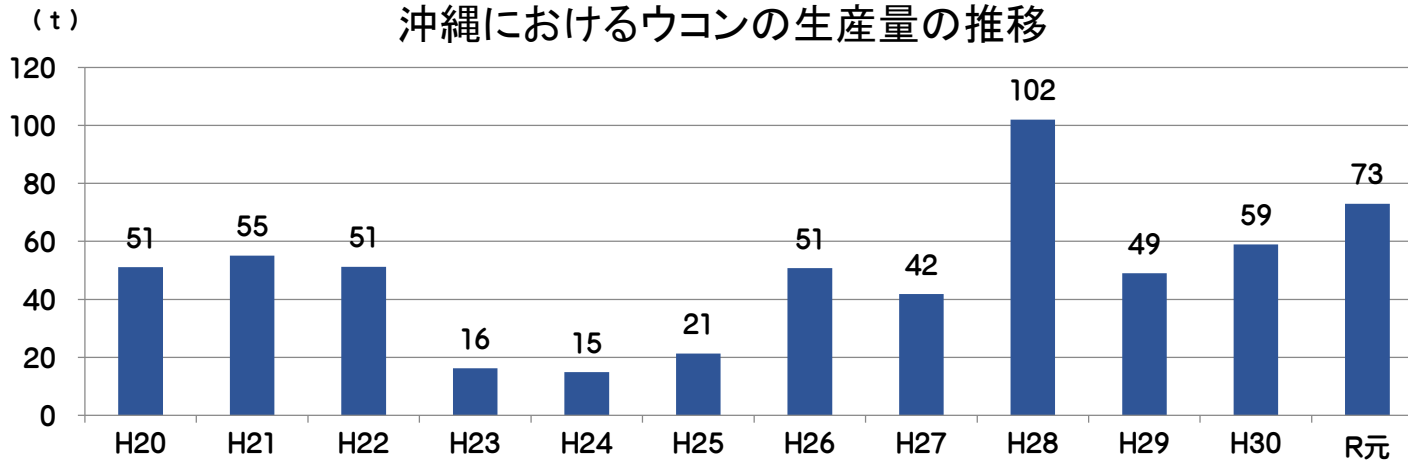
- 沖縄県の葉たばこは、宮古島市、伊江村、石垣市などの離島地域を中心に生産され、農業産出額が約39億円(令和元年)で県農業産出額の約4%を占めています。
- 沖縄県の葉たばこ生産の推移については、平成13年の面積1,353haをピークに減少し、直近10年間は横這いで推移しております。
- 令和2年産では、面積772ha(全国2位)、生産量1,685t(全国2位)、販売金額35億円(全国2位)となり全国でも上位に位置する産地となっております。



沖縄におけるウコンの生産状況

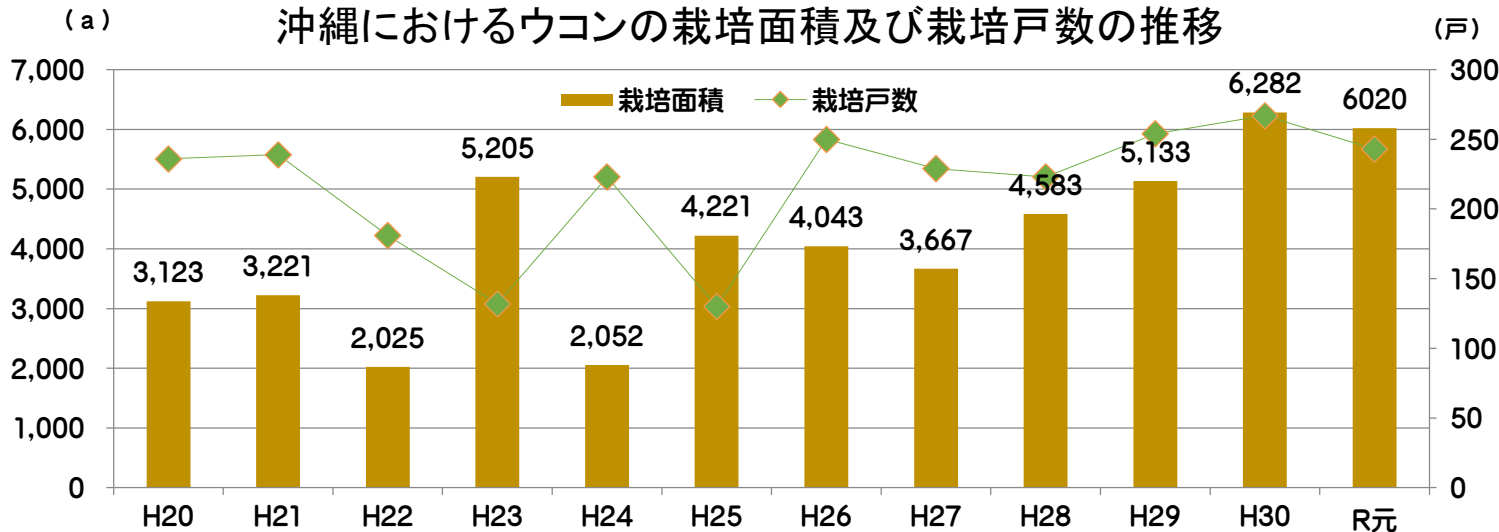
○ 沖縄における薬用作物は、主に健康食品向けとしてウコン、アロエ等が栽培されており、ほとんど加工業者と農家等との契約栽培で行われています。令和元年産生産量は、ウコンが73tとなっています。

沖縄におけるウコンの生産量の推移



ウコンの花

沖縄におけるウコンの栽培面積及び栽培戸数の推移



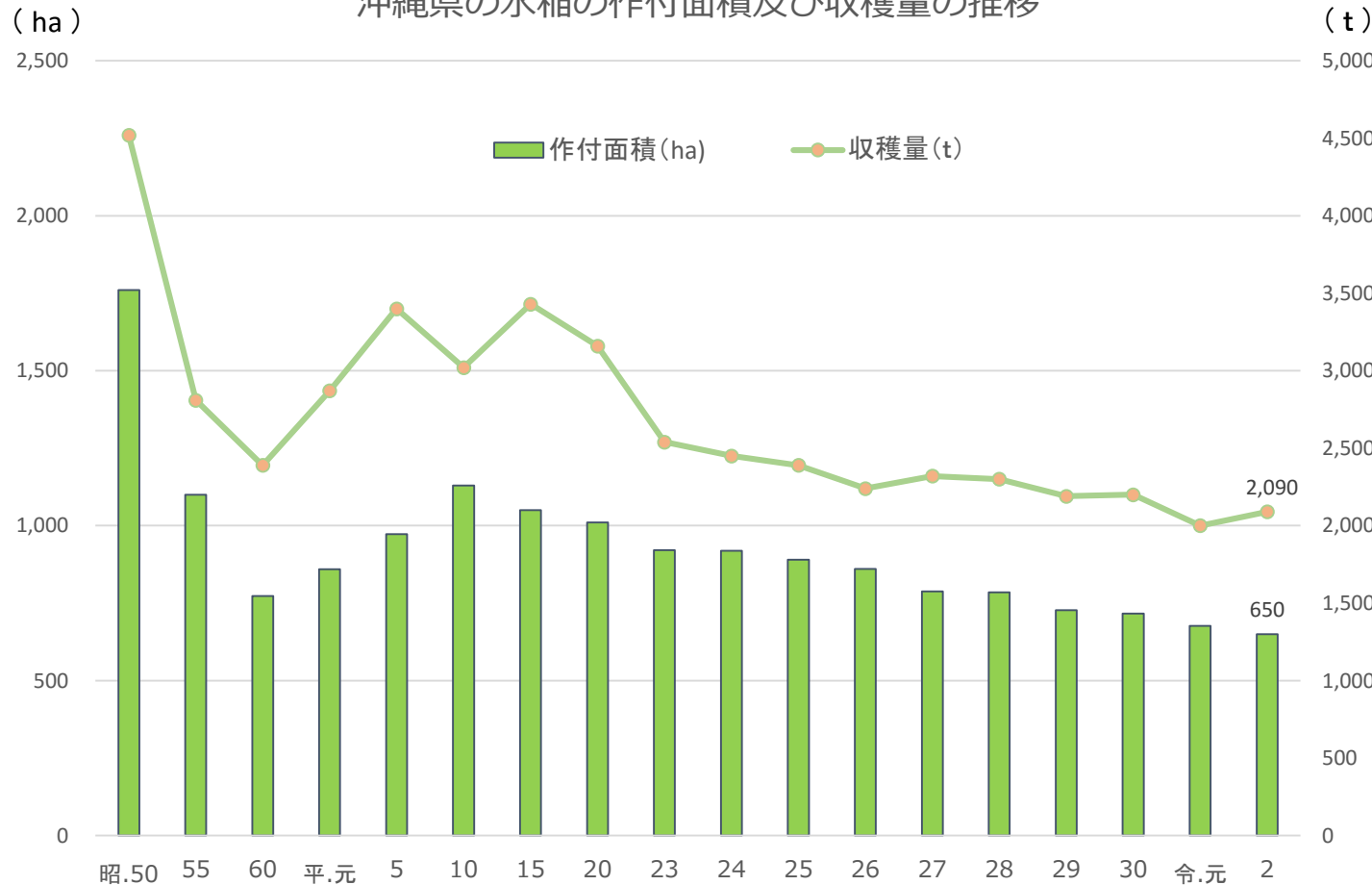
ウコンの根茎

資料：「薬用作物及び和紙原料作物に関する調査」(日本特産農産物協会)

沖縄における水稲の生産状況 ～作付面積と収穫量～

- 沖縄では、昭和20年代から30年代にかけて1万haを超える水稲の作付がされていたが、昭和37年のキューバ危機（キューバへのソ連の核ミサイル配備をめぐってアメリカとソ連が対立し戦争の危機が発生）に伴う砂糖価格の高騰や昭和46年の大干ばつの影響等により、水稲からさとうきびへの作付転換が急速に進行しました
- 沖縄の水稲収穫量は、全国の約0.03%と非常に少ない割合であることから、主食用米の供給の殆どを他県に依存しています。

沖縄県の水稲の作付面積及び収穫量の推移



資料: 水稲収穫量調査(農林水産省)

作付面積、収穫量、単収の全国との比較 (令和2年産)

区分	沖縄県	全国	割合
作付面積 (ha)	650	1,462,000	0.044%
収穫量 (t)	2,090	7,763,000	0.027%
単収 (kg)	322	531	60.6%

資料: 水稲収穫量調査(農林水産省)



資料: 水稲生育状況 (名護市羽地地区)

沖縄における水稲の生産状況 ～産地と品種～

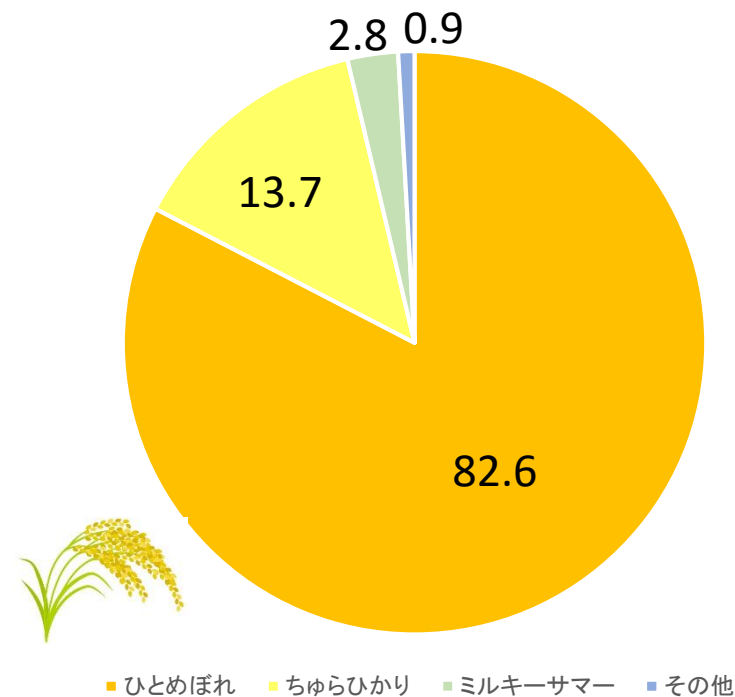
- 沖縄県の水稲の産地は、沖縄本島北部の伊平屋村、伊是名村や八重山地域の石垣島、竹富町、与那国町の離島が中心で、温暖な気候を生かして2期作に取り組んでいます。
- 令和2年産米の作付面積は650ha、収穫量は2,090トで、令和元年の水稲の農業産出額は、約5億円（県全体の0.5%）となっています。
- 沖縄県や農業団体では、『売れる米づくり』を目指して、奨励品種として平成11年に「ひとめぼれ」、平成17年に「ちゅらひかり」、平成24年に「ミルクィーサマー」を採用。それぞれの品種の普及を図り、安定生産・品質向上に取り組んでいます。

◎市町村別の作付面積、収穫量等（令和2年産）

資料：水稲収穫量調査（農林水産省）

区分	作付面積 (ha)			10a当たり収量 (kg)			収穫量 (t)		
	計	第一期稲	第二期稲	計	第一期稲	第二期稲	計	第一期稲	第二期稲
沖縄県	650	479	171	322	367	197	2,090	1,760	337
大宜味村	1	1	-	321	321	-	3	3	-
名護市	37	19	18	328	403	251	121	76	46
恩納村	12	6	6	240	300	180	28	18	11
金武町	48	24	24	265	350	180	128	84	43
伊平屋村	59	42	17	340	359	294	202	151	51
伊是名村	44	44	-	438	438	-	194	194	-
久米島町	2	1	1	256	376	135	5	4	1
渡嘉敷村	1	1	-	382	382	-	4	4	-
石垣市	358	266	92	317	368	168	1,130	979	154
竹富町	79	68	12	317	329	245	251	223	29
与那国町	5	5	-	268	268	-	13	13	-

◎品種別作付割合（令和元年産）



資料：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構

強い農業づくり総合支援交付金

産地の収益力強化と担い手の経営発展のため、産地・担い手の発展の状況に応じて必要な農業用機械・施設の導入を支援します。また、地域農業者の減少や労働力不足等の生産構造の急速な変化に対応するための生産事業モデルや農業支援サービス事業の育成を支援します。

■ 例えば・・・

○ゴーヤーの安定供給体制を構築するために、低コスト耐候性ハウスを導入したい・・・場合

【事業例1】

◎産地基幹施設等支援タイプ（県向け交付金）

> 産地農業において中心的な役割を果たしている農業者団体・農業法人等による集出荷貯蔵施設等の産地の基幹施設の導入を支援。

1. 事業実施主体

- ・ 県、市町村、農業者の組織する団体（農業協同組合、農事組合法人、農地所有適格法人、その他農業者の組織する団体）、公社等

2. 主な採択要件

- ・ 受益農業従事者（原則150日以上）が5名以上であること
- ・ 成果目標の基準（ブランド野菜の割合増加、「秀品」等の上位規格品の割合増加等）を満たしていること
- ・ 費用対効果分析を実施し、投資効率が1.0以上であること
・・・など

3. 助成対象

- ・ 農業用の産地基幹施設（耐用年数5年以上）

4. 交付率

- ・ 事業実施主体へは事業費の1/2以内等

【事業例2】

◎生産事業モデル支援タイプ（国直接採択）

> 核となる事業者が連携する生産者の作業支援など様々な機能を発揮しつつ、安定的な生産・供給を実現しようとする生産事業モデルの育成を支援。

1. 事業実施主体

- ・ 拠点事業者（※）である、農業者、農業者の組織する団体（農業協同組合、農事組合法人、農地所有適格法人、その他農業者が組織する団体）、民間事業者、コンソーシアム等

2. 主な採択要件

- ・ 協働事業計画に位置付けられた拠点事業者が事業実施主体であること
- ・ 成果目標の基準（10a当たり収量を3%以上増加、単位収量当たりの労働時間を5%以上縮減等）を満たしていること
- ・ 費用対効果分析を実施し、投資効率が1.0以上であること
・・・など

3. 助成対象

- ・ 農業用機械・施設（耐用年数5年以上）

4. 交付率

- ・ 1/2以内等

（※）農業者、農業者の組織する団体、民間事業者等であって、安定的な生産・供給に向けて、協働事業計画に基づいて生産安定・効率化機能、供給調整機能、実需者ニーズの対応機能の具備・強化に取り組むもの。

強い農業づくり総合支援交付金

【令和4年度予算概算要求額 19,310 (14,164) 百万円】

<対策のポイント>

産地の収益力強化と持続的な発展のため、強い農業づくりに必要な産地基幹施設の整備等を支援します。また、地域農業者の減少や労働力不足等生産構造の急速な変化に対応するための生産事業モデルや農業支援サービス事業の育成を支援します。

<事業目標>

- 加工・業務用野菜の出荷量（直接取引分）の拡大（98万トン〔平成29年度〕→145万トン〔令和12年度まで〕）
- 1 中央卸売市場当たりの取扱金額の増加（695億円〔平成28年度〕→719億円〔令和6年度まで〕）
- 化石燃料を使用しない園芸施設への完全移行〔2050年まで〕

<事業の内容>

1. 地域の創意工夫による産地競争力の強化（産地基幹施設等支援タイプ）

- 産地収益力の強化**
産地農業において中心的な役割を果たしている農業法人や農業者団体等による集出荷貯蔵施設等の産地の基幹施設の整備等を支援します。
- 産地合理化の促進**
産地の集出荷、処理加工体制の合理化に必要な産地基幹施設等の再編等を支援します。
- 食品流通の合理化**
品質・衛生管理の強化等を図る卸売市場施設、産地・消費地での共同配送等に必要なストックポイント等の整備を支援します。
- みどりの食料システム戦略の推進**
みどりの食料システム戦略に掲げる取組（化学農薬の低減、化学肥料の低減、有機農業の拡大、ゼロエミッション化等）の推進に必要な施設の整備等を支援します。

2. 生産構造の急速な変化に対応するための生産事業モデル等の育成

- 生産事業モデル支援タイプ**
核となる事業者が連携する生産者の作業支援など様々な機能を発揮しつつ、安定的な生産・供給を実現しようとする生産事業モデルの育成を支援します。
- 農業支援サービス事業支援タイプ**
農業支援サービス事業の育成に必要な農業用機械等の導入を支援します。

<事業の流れ>



<事業イメージ>

【都道府県向け交付金】

産地競争力の強化	A 産地基幹施設等支援タイプ ・助成対象：農業用の産地基幹施設 ・補助率：1/2以内等 ・上限額：20億円等			
	優先枠の設定 「攻めの農業」の実現に向け、次の取組を積極的に支援 a 中山間地域の競争力強化【20億円】 中山間地域の地域別農業振興計画に基づき行う取組に必要な産地基幹施設の整備等 b 集出荷・加工の効率化に向けた再編合理化【20億円】 高収益な産地体制への転換を図るために、集出荷・処理加工施設等の再編合理化 c 重点政策の推進【10億円】 水田農業の高収益化、スマート農業を行う取組に必要な集出荷貯蔵施設等の整備 ※その他、加算ポイントにより、輸入農畜産物の国産への切替え、環境保全の取組等を推進 みどりの食料システム戦略の推進【30億円】 1. ①～③のメニューとは別枠で、みどりの食料システム戦略推進のための取組に必要な施設を整備			

【国直採択】

モデル等の育成	B 生産事業モデル支援タイプ ・助成対象：推進事業（農業用機械、実証等） 整備事業（農業用施設） ・補助率：定額、1/2以内 ・上限額：推進事業5,000万円 整備事業20億円		
	C 農業支援サービス事業支援タイプ ・助成対象：農業用機械等 ・補助率：1/2以内 ・上限額：1,500万円		

農産局総務課生産推進室 (03-3502-5945)
 新事業・食品産業部食品流通課 (03-6744-2059)
 農産局技術普及課生産資材対策室 (03-6744-2111)

産地生産基盤パワーアップ事業

収益力強化に計画的に取り組む産地に対し、**農業者等が行う高性能な機械・施設の導入や栽培体系の転換等**に対して総合的に支援します。また、輸出関連等の事業者と農業者が協働で行う取組の促進等により**海外や加工・業務用等の新市場を安定的に獲得していくための拠点整備、全国産地の生産基盤の強化・継承等を支援**します。

- 例えば・・・①**ゴーヤー**の安定供給体制を構築するために、**低コスト耐候性ハウスを導入**したい場合・・・【事業例1、2】
②**離農**するため、**ゴーヤーハウスを新規農業者等に継承**したい場合・・・【事業例3】

【事業例1】

◎新市場獲得対策（国直接採択）

>新市場のロット・品質に対応できる拠点事業者の育成に向けた貯蔵・加工・物流拠点施設等の整備、拠点事業者と連携する産地が行う生産・出荷体制の整備等を支援。

1. 事業実施主体

- ・拠点事業者（※）及び連携者である、農業者、農業者の組織する団体（農業協同組合、農事組合法人、農地所有適格法人、その他農業者が組織する団体）、民間事業者、コンソーシアム等

2. 主な採択要件

- ・協働事業計画に位置付けられた拠点事業者又は連携者が事業実施主体であること。
- ・成果目標の基準（10a当たりの収量を3%以上増加、単位収量当たりの労働時間を5%以上縮減等）を満たしていること
- ・費用対効果分析を実施し、投資効率が1.0以上であること

・・・など

3. 助成対象

- ・農業者と協業する輸出事業者等による貯蔵・加工等の拠点整備、産地の生産・出荷体制の整備

4. 交付率

- ・1/2以内等

（※）農業者、農業者の組織する団体、民間事業者等であって、安定的な生産・供給に向けて、協働事業計画に基づいて生産安定・効率化機能、供給調整機能、実需者ニーズの対応機能の具備・強化に取り組むもの。

【事業例2】

◎収益性向上対策（県・基金管理団体）

>収益力強化に計画的に取り組む産地に対し、計画の実現に必要な農業機械の導入、集出荷施設の整備等を総合的に支援。

1. 支援対象者（取組主体）

- ・地域農業再生協議会等が作成する産地パワーアップ計画（※）（収益性向上タイプ）に参加する農業者、農業者団体（農業協同組合、農事組合法人、農地所有適格法人、その他農業者が組織する団体）等

2. 主な採択要件

- ・産地パワーアップ計画（収益性向上タイプ）において基準を満たした成果目標（販売額又は所得額の10%以上の増加、労働生産性の10%以上の向上等）を定めること
- ・面積要件等を満たしていること

・・・など

3. 助成対象

- ・集出荷施設、農産物処理加工施設の整備を通じた集出荷機能の改善、高付加価値化による産地の収益力強化に向けた取組

4. 交付率

- ・1/2以内等

（※）県協議会長等により定められた産地の農業の収益性の向上及び生産基盤の強化を図るための計画で、県知事が承認したもの。

【事業例3】

◎生産基盤強化対策（県・基金管理団体）

>農業用ハウスや果樹園・茶園等の生産基盤を次世代に円滑に引き継ぐための再整備・改修、継承ニーズのマッチング等を支援。

1. 支援対象者（取組主体）

- ・地域再生協議会等が作成する産地パワーアップ計画（生産基盤強化タイプ）に参加する農業者、農業者団体（農業協同組合、農事組合法人、農地所有適格法人、その他農業者が組織する団体）等

2. 主な採択要件

- ・基準を満たした成果目標を定めること
 - ・生産基盤の強化と次世代への円滑な継承を図るために必要な再整備・改修に取り組む場合は、5年以内に農業用ハウス等を継承者に譲渡する計画があること、又はすでに譲渡を受けているが、これから本格的な営農を開始する計画があること
- ・・・など

3. 助成対象

- ・新規就農者や担い手への継承に必要な低コスト耐候性ハウス等の再整備

4. 交付率

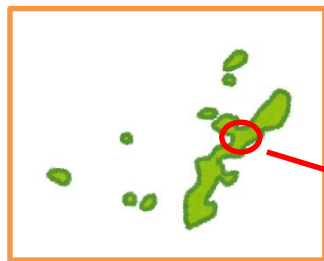
- ・1/2以内等



産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例（29年度：計画作成主体：名護市担い手育成総合支援協議会）（沖縄県）

取組の概要

- 対象品目：地域特産物（ウコン）
（産地面積28.5ha）
- 主な取組主体：生産者（4団体及び個人）
- 成果目標：総販売額の10%以上の増加
基準（H28年度）101,890,750円
目標（R元年度）112,079,825円
- 導入施設等：生産支援事業（機械リース（トラクター、サブソイラー等5台））



沖縄県
名護市

ポイント

【産地の課題及び取組方向】

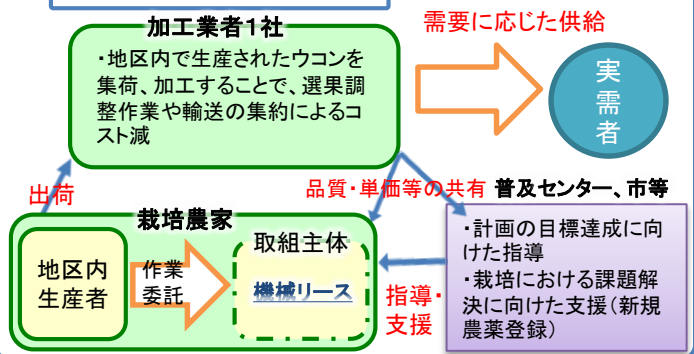
沖縄産のウコンは健康食品の加工原料用として需要が高い。当該地区はウコンの産地として県の認定を受け、加工施設も地区内に複数あるが、供給が追いついていない状況である。そこで中心的な経営体にトラクター等の機械を導入し、規模拡大を図るとともに、効率の良い生産体制を確立し、販売額10%以上の増加を目指す。



【産地の体質強化に向けた方策】

効率の良い生産体制を確立し、規模拡大を図るため、トラクター、サブソイラー、植付け機、堀取り機などを導入。

産地体制



地域における独自の取組

〈主な取組〉

- 産地内で栽培から加工、販売までを地域で一貫して行う体制を構築。また、併せて農作業受託体制を構築。
- 市単独事業で肥料代を補助し、土づくりを支援。

取組成果

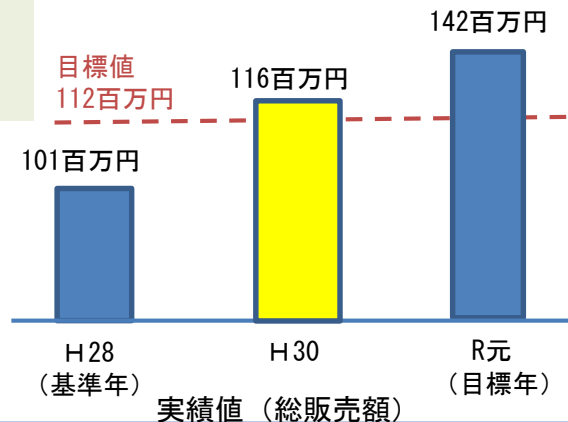
【事業実施による直接効果】

- ①機械のリース導入により、作業受託体制が整い、規模拡大する農家が増加。

【事業実施による間接効果】

- ①産地全体の生産者数の増加
（H28:136人→R1:177人）
- ②栽培面積の大幅な増加（29ha→42ha）

総販売額が40%増加
（達成率400%）



琉球泡盛テロワールプロジェクト（概要）

- 近年、アルコール飲料の多様化等により琉球泡盛の消費量は減少傾向で推移していることから、官民一体となり「琉球泡盛海外輸出プロジェクト」等により泡盛の海外展開を推進している。
- この取組の一環として、泡盛原料用米（長粒種米）を県内で生産して泡盛のブランド価値を高め、その魅力を最大限PRして輸出の促進に資するため、国、県、JAなどと「琉球泡盛テロワールプロジェクト」会合を開催している。泡盛メーカーの需要に応じた泡盛原料用米を県内で生産することで、泡盛の輸出拡大と沖縄の水田農業の活性化が期待されている。
- 昨年は、コンタミ防止の観点から伊平屋島の2期作で泡盛原料用米を生産した（収穫された米は、本プロジェクトに参画する県内酒造所へ提供）。
- 本年は、伊平屋島及び伊是名島の2期作で泡盛原料用米を生産予定。今後、関係者と連携して、これまでの取組結果を踏まえ、農家への栽培指導等を行っていくこととしている。

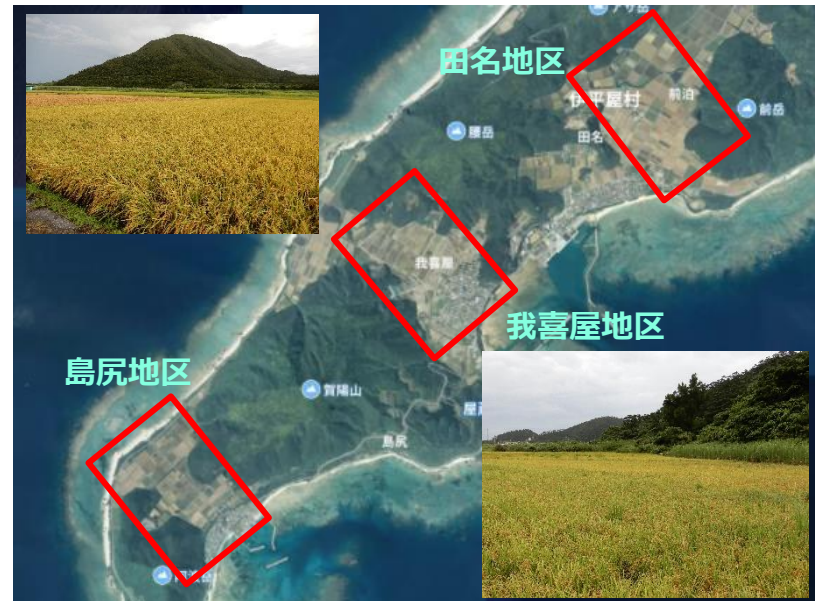
【伊平屋島での泡盛原料用米の作付結果】

本プロジェクトにおいて、昨年は、伊平屋島の島尻地区、我喜屋地区及び田名地区で泡盛原料用米（長粒種米）を栽培。令和元年の課題を踏まえ、生産者に対して栽培指針の周知徹底を図り、適期栽培の取組を強化した結果、前年度を上回る実績となった。

作付品種	栽培面積	農家戸数	収穫量（玄米重）
YTH183	(5.8ha) 10.0 ha	(4戸) 9戸	(9 t) 24 t
北陸193号	(4.2ha) 6.9 ha	(4戸) 3戸	(5 t) 26 t
計	(10.0ha) 16.9 ha	(8戸) 12戸	(14 t) 50 t

上段（ ）は平成元年度の実績

【位置図】



琉球泡盛テロワールプロジェクト（テロワール泡盛）

琉球泡盛海外輸出プロジェクト行動計画 2020.10.29 改定（抜粋）

○琉球泡盛のブランド価値を高め、その魅力をPRするためには、テロワール（地域に根ざした原料調達）が重要。このため、泡盛製造業者と生産者のマッチングにより、県産長粒種米を使用した泡盛製造を推進。

○2019年度の取組を踏まえ、栽培手引きを作成・普及しつつ、2020年二期作において泡盛原料用の県産長粒種米の生産を推進し、海外輸出を予定している酒造メーカーへ供給。



R元年産長粒種米を原料として醸造された泡盛

（左から、比嘉酒造、まさひろ酒造、忠孝酒造、久米島の久米仙）



北陸193号（R2年産）



YTH183（R2年産）